

家族色

三好晴樹

ぼくの家族は、みんないろんないいところがあります。それを絵の具で表すと、全部ちがう色になります。

ぼくのママは青です。ママは家事や仕事をしてくれます。ほかに習い事の送りむかえもしてくれます。ママはやさしくて静かな海の青のように、ぼくの事を思ってくれています。でもぼくが悪い事をしておこったときは、あらしの時の海のように黒っぽい青になります。おこられている時はとてもこわいけど、ぼくの事を考えてくれておこっているのがまんです。だから、ぼくは少しでもおこられる回数へるようにながらばります。

ぼくのパパはオレンジです。パパはぼくの勉強を見てくれたり、分からないところを分かるように教えてくれたりもします。休みの日はカブト虫をつかまえに行ったり、いっしょに遊んでくれたりします。家でもよくじょう談を言っています。だからパパの明るいせいかくは、太陽のようなオレンジの明るさがびつたりです。

みいちゃんはぼくのお姉ちゃんです。色は赤です。みいちゃんは、ぼくの勉強の丸つけをしてくれたり、後の事を考えて真げんに注意してくれたりします。他にいっしょに遊んでくれた

り、ほくがおこられている時に助けてくれたりします。本当にいろんな事をアドバイスしてくれます。みいちゃんと遊ぶのは楽しいです。そんなみいちゃんはいろんな事をがんばって、やる気があるからもうえる赤です。

ほくのじいちゃんは茶色です。それはほくが食べる野菜やお米や果物をつくってくれて、日やけをしているからです。ほくのじいちゃんはおいしい物をたくさん作ってくれます。いつものごはんには必ずじいちゃんがつくった物が入っています。

ほくのばあちゃんはピンクです。いつもほくがばあちゃんちに行くとき、「はるくん。」と言って喜んでくれます。そんなばあちゃんはみんなにやさしく、おこる事がほとんどないから、やさしいピンクがよく合います。

ほくは、そのほかにもたくさんの人に助けてもらいながら生きています。ほくの周りにはいろんな色があふれています。ほくが画用紙だとしたら、みんなのいろんな色できれいな絵がかけそうです。

これからもみんなにいつも「ありがとう」の気持ちをわすれず、少しずついろんな色を分けてもらいながら、ほくがりっぱな絵になるようにがんばっていきます。